

全面解決へ新たな挑戦

拉致被害家族5人 帰国から1週間

小泉純一郎首相の再訪朝と、北朝鮮による拉致被害者家族の帰国から二十九日で一週間。再訪朝の結果に漏らした落胆の言葉に、思わぬ批判を受けた被害者家族らは多くの支援を前に、拉致問題の全面解決への「新たな挑戦」を誓った。一時は気落ちしたように見えた曾我ひとみさん(右)も元気を取り戻し、「胸のうさをすべて話したい」と、きょう行われる政府側との面談に、一日も早い家族との再会をかける。

(●面参照)



拉致問題を考えるパネルディスカッションに出席する横田夫妻(右と左隣)ら。写真は29日午後、東京都町田市の市立総合体育館で



拉致問題を考えるパネルディスカッションに集まった大勢の人たち

5月30日付東京新聞

「批判あるが励まし多い」

横田さんら 4000人を前に決意

拉致被害者家族会代表 大勢の参加者を前に、滋の全面解決へ向け、あら

の横田さん(右)と妻早紀江さん(左)は、これまでも地道に集会や活動をやっていた。東京町田市内で開かれた支援集会に出席、なると思つたと拉致問題

の全面解決へ向け、あらためて決意を示した。首相訪朝への期待が、落胆、そして失望。一週間、家族会メンバーの発言に対する予想もしなかった批判が、家族に追い打ちをかけた。

「首相への感謝や帰された田口八重子さん(当時)の兄・飯塚雄三さんが、参加者かじに映らなかっただけで贈られた励ましの色紙。事実はない」と涙を流しながら、「バツシ」の場を忘れることしなかった。(安否未確認の拉致被害者 十人のうち、四千人以上の方々の応援を力に新たな挑戦をだれかが帰つてくると思っていた)と家族の胸の内を明かした。

早紀江さんも「期待が大きかった分、誤解もあった。批判もあるが、励ましも多い」と語った。務局長の増元昭明さん(右)は「家族会、救う

会、拉致議連の三者で内の評価などについて議論の地固めが先だろう」と述べ、「北朝鮮に拉致された日本人救出のための市民の会」が主催、市民ら約四千人、主催者宛大臣らと、日朝首脳会談表)が参加した。

横田夫妻はパネリストとして、救済会の西岡力副会長、逢沢一郎外務副大臣らと、日朝首脳会談表)が参加した。

訪朝結果を受けて六月六日に予定されていた緊急集会は中止になった。理由については、家族会事務局次長の増元昭明さん(右)は「家族会、救う